

# クローズアップ! 就職指導

## 志望先への熱意の言語化

3年次8月・9月  
(応募書類の作成と面接指導)

### 履歴書と面接で 生徒の熱意を 企業に伝える

9月5日から各企業・事業所(以下「企業」)が応募書類の受け付けを開始するため、8月に行う高校の就職指導は、応募書類の作成が中心となる。応募書類として提出するのは調査書と履歴書で、企業はそのほかの書類の提出を求めているわけではない。また、履歴書は、「全国高等学校統一用紙」を使用する決まりとなっている。

高卒就職では、書類のみで選考を行うことは禁止されており、面接や適性検査、一般常識を問う筆記試験などを経て、採否が決定される。中でも面接は、企業が生徒の志望の熱意を見る重要な機会であり、履歴書に書かれている志望理由との一貫性や具体性も見られる。

今回は、学校幹旋による就職指導の山場である、履歴書の作成と面接指導について、その連続性も念頭に置きながら実践事例を見ていく。

#### 実践事例

### 自分と企業をつなぐキーワードを探す 北海道札幌真栄高校

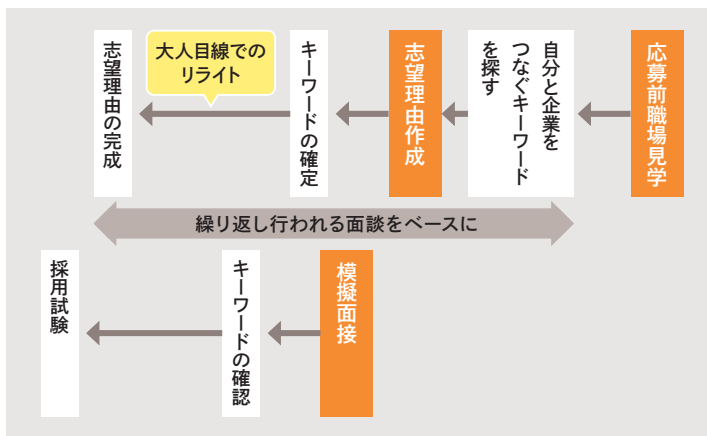
#### 大人目線でのリライトを経て、 志望理由を完成

学校幹旋による高卒就職の中で、就職指導担当の教師が最も力を入れるのは、生徒の志望先への熱意を高め、納得感のある就職を実現させることだ。生徒の志望先への熱意を高めることは、企業側の「この生徒と一緒に働きたい」という採用の意思決定を後押しすることにもつながるからだ。

志望先への熱意を形として表すのが、履歴書の中の志望理由、そして面接だ。北海道札幌真栄高校、そして、前任校の工業高校で就職指導に携わってきた三浦晃裕先生は、職場見学、履歴書の作成、面接指導の流れの中で、生徒が「自分と企業をつなぐキーワード」を見つけることが重要だと説明する。そのキーワードの発見の場となるのは、丁寧に繰り返される面談だ(図1)。

「7月中の応募前職場見学から戻ってきた生徒に、『どんなところがよかった?』『あの会社で、

図1 キーワードを軸に進む就職指導の流れ



※学校資料を基に編集部で作成。

## 変化の激しい社会に飛び込む生徒に伴走

自分にできそうなことは？」などと問いかけていきます。すると、『部活動を通して、困難な状況の中でも明るく振る舞える力身につけたので、職場のみんなを元気にしたい』『適性検査でも高スコアだった私の強みである協調性を生かしたい』などと、自分の思いを言葉にし始めます。そこで、『明るく振る舞える力や協調性は、企業が求めている人材像にどのように合っていると思う？』などと問いかけることで、生徒は、自分と企業をつなぐキーワードを見つけてます(図2)。

キーワードのめどがついた生徒から、履歴書の中の志望理由を書くよう指導している。

「ほとんどの生徒は、最初は理路整然とした文章を書くことができません。しかし、その段階では、『自分の長所である協調性を、人材管理などの業務で発揮したい』のように、自分と企業をつなぐキーワードが盛り込まれていればよしとしています」

その後、北海道教育庁から派遣される進路相談員(※)と分担して取り組むのが、生徒の志望理由の「大人目線でのリライト」だ。面談で把握した生徒の適性や強みを念頭に、生徒の書いた志望理由を大人目線の言葉に変換し、リライトする。

「生徒は、書き直された文章を見て、『これが言いたかったのです』と喜びます。しかし、私が、『では、この志望理由を企業に出す？』と尋ねると、生徒は首をかしげます。リライトされたものが自分らしい文章になっていないと、生徒は分かっているからです。そこで、自分らしい言葉に置き換えた、具体的なエピソードを加えたりしながら、自分にか書けない志望理由に練り上げていきます」

同校では、9月上旬には、就職希望のすべての生徒が、リライトを経て、志望理由を書き直して

完成させる。

「夏季休業に入る段階では、多くの生徒は志望理由を書けていませんが、それは志望理由が『ない』ではなく、『言葉にできない』だけなのです。生徒が思いを言語化するための土台として、大人目線でリライトした文章を見せています」

### 志望のキーワードを 模擬面接でも確認

志望理由の検討と並行して模擬面接も行う。

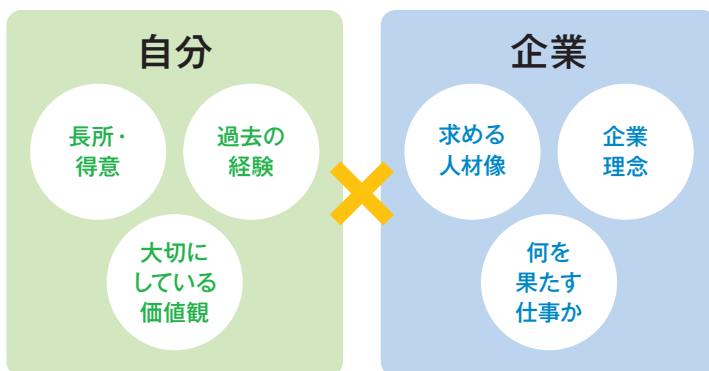
「企業の採用担当者は、『履歴書に書かれている志望理由がどれだけ熱を持ったものなのかは、履歴書の文面ではなく、面接での言葉で判断する』と言います。そのため、生徒には、『面接で、志望理由を自分の言葉で熱く語れるかが採否の鍵を握る』と話しています」

面接指導でも大切にしているのは、自分と企業をつなぐ熱いキーワードだ。

「教師は、模擬面接の前に、生徒の志望先の会社案内などを見て、生徒が準備しているキーワードを引き出す質問を考えます。また、模擬面接の振り返り際には、生徒に『君が語った経験とそこで学びは、企業が求める人材像に合致するか、キーワードとして大切にしたいね』などとアドバイスをします。模擬面接は、生徒にキーワードを確認させる場なのです」

高卒就職の面接では、生徒の長所を見つけて採用につなげてあげたいという思いを前面に打ち出す企業も多い。だからこそ、模擬面接では、生徒に臆することなく、自分と企業をつなぐキーワードを語らせたいと三浦先生は考えている。

図2 志望理由の検討時に生徒に意識させる、自分と企業のつながり



志望理由を書かせる際に、三浦先生は上図のような視点を提示し、生徒に自分と企業をつなぐキーワードを考えさせる。

※学校資料を基に編集部で作成。



1 学年担任  
進路指導部

**三浦晃裕**

みうら・あきひろ

教職歴 31 年。同校に赴任して 5 年目。

#### 学校概要

- ◎設立 1983 (昭和 58) 年
  - ◎形態 全日制/普通科/共学
  - ◎生徒数 1 学年約 200 人
  - ◎2021 年度進路実績 (現役のみ)
- 4 年制大は、公立千歳科学技術大、札幌学院大、札幌国際大、北星学園大、北海学園大、日本医療大、専修大、東海大などに延べ 58 人が合格。短大・専門学校進学 73 人。就職 11 人。

\* 進路相談員は、各校の進路指導担当教員と連携し、就職を希望する生徒の、就職活動にかかわる支援等を行う。